（第二版）　（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）　昭和十三年十二月一日（木曜日）　臺灣日日新報　第一万三千九百三號

御前會議開く

更生新支那との國交調整方針審議

【東京三十日發同盟】三十日午前宮中に新支那との國交調整方針審議の御前會議が開かれ風見書記官長より左の談話が發表された

風見書記官長談　十一月卅日午前十時三十分宮中に御前會議開かれ參謀總長、軍令部總長（代理軍令部次長）內閣總理大臣、陸軍、海軍、外務、大藏各大臣、樞密院議長、參謀次長出席し更生新支那との國交調整方針につき愼重審議の上原案通り可決正午終了せり

も勿論愼重に審議することと信ず、尊覽は何卒此の點御諒承せられありて武國三軍はわれの意圖に歸したる今日においても擧子は

各國軍艦一回だけ往復航行を認む

出先海軍當局の厚情

【上海二十九日發同盟】陸海軍當局は別項の如く當局談を發表現航において揚子江航行再開の可なる所以を闡明したが一方海軍當局では現在揚子江上流各地に在る諸外國軍艦が作戰行動を開始する地方に在泊したその不自由を察し若し外國側の希望があれば近く一定條件の下に交代のため一回の往復を認め一回限り上海との間に航行を認めることとなりこの旨二十日及日曜午後より在上海各國總領事館指揮官に通告し

珠江デルタ地帶殘敵を完全掃蕩

海軍陸戰隊の手で

【廣東二十九日發同盟】陸の奧江デルタ地帶の掃蕩は海軍陸戰隊

圓滿に解決

九龍國境トーチカ事件

【香港二十九日發同盟】九龍駐屯軍司令官リーブ少將、後藤部隊長、ニューハム中佐、石野大佐、中村經濟特別委員會主席、二十六日の國境事件につき滿足すべき聲明あり、その結果兩國國境方面の警備に關する限り本件は解決したものと認むと云ふに同意しリーブ少將は深圳の本部に後藤部隊長を訪問、後藤部隊長も答禮後兩國の陣地にリーブ少將を答禮のため訪れ極めて和氣藹々裡に會談を終つた

九龍國境附近殘敵掃蕩完了

【香港二十日發同盟】香港當局は九龍國境附近の治安確保のため出動中の軍隊は二十九日曉敵殲滅を期し總攻撃を開始したが二十九日午前一切の調停工作を一蹴し斷乎罷業彈壓方針をもつて押通すに決定し待機中の各軍隊に對し罷業團體の巢窟に對し斷然武力發動を命令した、一方罷業の總本部たる勞働總同盟では事態かくなつては已むを得ずと見てか二十九日及三十日の兩日に亙り全國一齊に反政府の總罷業を決行すべく氣勢を擧げてをり不穩事は愈々一月卅日以來の優勢なる

日支關係調整方針

一日か二日頃公表

近衞首相談の形式で

【東京三十日發同盟】政府は二十八日の連絡會議において決定せる日支國交調整の根本方針に關し二十九日晝閣議の承認を經たので議長の手續を經て近衞首相談の形式をもつてこれが內容を公表すべく準備を進めてゐるが發表の時期は十二月一日或は二日頃となる模樣で遲くも今週中には發表する方針である

六相重要協議

【東京二十日發同盟】近衞首相、池田藏相、有田外相、末次內相、板垣陸相、米內海相は三十日早朝九時卅分首相官邸に參集二十八日の閣議並に二十九日の參議會において承認を得た日支國交調整根本方針の具體化に關し重要協議を遂げ同十時十分散會した

ダラディエ佛首相斷乎罷業を彈壓

悽慘！內亂勃發の虞

【パリー二十九日發同盟】總罷業問題を繞つて對立せる勞働組合との對立緩和はいよ〳〵惡化しつつあり總罷業の發生は二十九日を期日に迫つて愈々切迫の度を加へ何時防がうと時局收拾に關しては全く絶望となつてゐるダラディエ首相は二十九日午前一切の調停工作を一蹴し斷乎罷業彈壓方針をもつて押通すに決定し待機中の各軍隊に對し罷業團體の巢窟に對し斷然武力發動を命令した、一方罷業の總本部たる勞働總同盟では事態かくなつては已むを得ずと見てか二十九日及三十日の兩日に亙り全國一齊に反政府の總罷業を決行すべく氣勢を擧げてをり不穩事は愈々一月卅日以來の優勢なる

天津日華經濟聯盟

あす發會式を擧行

【天津二十日發同盟】日前關係の經濟提携を促進するとともに北支經濟建設に積極的に協力すべく從來より天津の日本商工會議所と支那側の天津市商會が相俟つて設立に努力してゐた天津日華經濟聯盟は愈々明一日天津大會堂において發會式を擧げることになつたが、聯盟の會員は日支兩側八百餘名で發會は名譽會長、顧問等共日支

地區內への移動開始方を命令した、一方罷業の總本部たる勞働總同盟では事態かくなつては已むを得ずと見てか二十九日及三十日の兩日に亙り全國一齊に反政府の總罷業を決行すべく氣勢を擧げてをり不穩事は愈々一月卅日以來の優勢なる

皇軍が長江を啓開

列國の希望應じ難し

航行再開問題　陸海軍當局談

【上海二十九日發同盟】揚子江航行再開問題に關し二十九日陸海軍當局では左の如き當局談を發表其の聲明したり

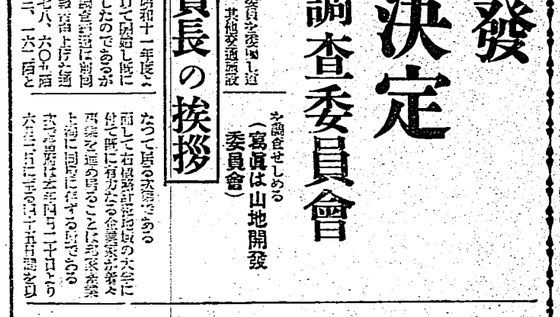
陸海軍當局談　當該地區に於ける揚子江航行再開に關し兩軍當局間に種々協議が行はれあるに鑑みこの點に對し作戰當局の所見を明にすることは從來たらざるも

事變勃發　するや支那側はは揚子江に多數の機雷を敷設しまたはこれを敷設せしむるとともに江陰、鎭江、蕪湖、石臼湖及び鄱陽湖などに堅固なる防禦陣地を構築するため多數の軍隊を以つてせり、日本軍は所要の作戰を實施し敵の強固なる支那軍の抵抗を排除し揚子江に於ける敵の機雷を掃蕩するに至つたり、若し日本軍に於て支那軍の妄惡せる防禦陣地を撤去することなくして揚子江を航行せんとするものあらんか

現在の揚子江　現在の揚子江は事變前のそれとはその狀況を全く異にし、即ち事變勃發するや支那側は揚子江に多數の機雷を敷設しまたはこれを敷設せしむるとともに江陰、鎭江、蕪湖、石臼湖及び鄱陽湖などに堅固なる防禦陣地を構築するため多數の軍隊を以つてせり、日本軍は所要の作戰を實施し敵の強固なる支那軍の抵抗を排除し揚子江に於ける敵の機雷を掃蕩するに至つたり、若し日本軍に於て支那軍の妄惡せる防禦陣地を撤去することなくして揚子江を航行せんとするものあらんか

航行再開　問題の重點は揚子江に於ける敵の機雷を如何に處理するかにあるが、日本軍が事變上の必要より揚子江を閉塞せる時これを解止するに有效適切なる措置を執らざるに於ては他の列國側船舶の揚子江航行再開は實際問題として困難なるものあり

作戰遂行上の必要　に基因す、支那



東部地方山地開發計畫要綱を決定

山地開發調査委員會

委員長の挨拶

なつて居る次第であります而して右機關は記憶の次に御話した通り二年有半を經過したのであるが茲に於て既に有力なる企業家等より再三要望を受ける事情もあり且つ又現在の時局に鑑みても無駄な事業は之を中止し又緊急を要する事業は之を速かに實施する必要があるので茲に於て從來の計畫を變更して新たに東部地方山地開發計畫を樹立し之が實施を期する事に決定したのであります

分擔金　第一期事業計畫に關する件

第二期事業　東部地方山地開發事業實施計畫に關する件

第三期事業　一、鐵道敷設調査にその實施に關する件

二、企業の助成（イ）道路開發の助成（ロ）山地植林企業の助成（ハ）山地植林企業の助成（ニ）鑛業の助成（ホ）山地開發に關する調査研究の實施（ヘ）其の他山地開發に關する調査研究の實施

第四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第十期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第十一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第十二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第十三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第十四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第十五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第十六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第十七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第十八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第十九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二十期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二十一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二十二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二十三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二十四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二十五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二十六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二十七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二十八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二十九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三十期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三十一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三十二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三十三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三十四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三十五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三十六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三十七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三十八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三十九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四十期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四十一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四十二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四十三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四十四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四十五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四十六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四十七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四十八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四十九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第五十期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第五十一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第五十二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第五十三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第五十四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第五十五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第五十六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第五十七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第五十八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第五十九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第六十期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第六十一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第六十二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第六十三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第六十四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第六十五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第六十六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第六十七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第六十八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第六十九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第七十期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第七十一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第七十二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第七十三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第七十四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第七十五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第七十六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第七十七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第七十八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第七十九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第八十期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第八十一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第八十二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第八十三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第八十四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第八十五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第八十六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第八十七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第八十八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第八十九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第九十期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第九十一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第九十二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第九十三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第九十四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第九十五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第九十六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第九十七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第九十八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第九十九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百十期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百十一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百十二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百十三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百十四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百十五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百十六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百十七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百十八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百十九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百二十期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百二十一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百二十二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百二十三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百二十四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百二十五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百二十六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百二十七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百二十八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百二十九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百三十期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百三十一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百三十二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百三十三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百三十四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百三十五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百三十六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百三十七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百三十八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百三十九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百四十期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百四十一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百四十二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百四十三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百四十四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百四十五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百四十六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百四十七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百四十八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百四十九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百五十期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百五十一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百五十二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百五十三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百五十四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百五十五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百五十六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百五十七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百五十八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百五十九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百六十期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百六十一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百六十二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百六十三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百六十四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百六十五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百六十六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百六十七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百六十八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百六十九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百七十期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百七十一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百七十二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百七十三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百七十四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百七十五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百七十六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百七十七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百七十八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百七十九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百八十期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百八十一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百八十二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百八十三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百八十四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百八十五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百八十六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百八十七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百八十八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百八十九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百九十期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百九十一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百九十二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百九十三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百九十四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百九十五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百九十六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百九十七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百九十八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第百九十九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百十期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百十一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百十二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百十三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百十四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百十五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百十六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百十七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百十八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百十九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百二十期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百二十一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百二十二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百二十三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百二十四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百二十五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百二十六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百二十七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百二十八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百二十九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百三十期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百三十一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百三十二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百三十三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百三十四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百三十五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百三十六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百三十七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百三十八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百三十九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百四十期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百四十一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百四十二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百四十三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百四十四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百四十五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百四十六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百四十七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百四十八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百四十九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百五十期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百五十一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百五十二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百五十三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百五十四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百五十五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百五十六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百五十七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百五十八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百五十九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百六十期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百六十一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百六十二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百六十三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百六十四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百六十五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百六十六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百六十七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百六十八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百六十九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百七十期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百七十一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百七十二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百七十三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百七十四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百七十五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百七十六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百七十七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百七十八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百七十九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百八十期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百八十一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百八十二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百八十三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百八十四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百八十五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百八十六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百八十七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百八十八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百八十九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百九十期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百九十一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百九十二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百九十三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百九十四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百九十五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百九十六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百九十七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百九十八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第二百九十九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百十期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百十一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百十二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百十三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百十四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百十五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百十六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百十七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百十八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百十九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百二十期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百二十一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百二十二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百二十三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百二十四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百二十五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百二十六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百二十七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百二十八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百二十九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百三十期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百三十一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百三十二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百三十三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百三十四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百三十五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百三十六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百三十七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百三十八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百三十九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百四十期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百四十一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百四十二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百四十三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百四十四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百四十五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百四十六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百四十七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百四十八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百四十九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百五十期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百五十一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百五十二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百五十三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百五十四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百五十五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百五十六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百五十七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百五十八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百五十九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百六十期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百六十一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百六十二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百六十三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百六十四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百六十五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百六十六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百六十七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百六十八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百六十九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百七十期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百七十一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百七十二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百七十三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百七十四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百七十五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百七十六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百七十七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百七十八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百七十九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百八十期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百八十一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百八十二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百八十三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百八十四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百八十五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百八十六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百八十七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百八十八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百八十九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百九十期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百九十一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百九十二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百九十三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百九十四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百九十五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百九十六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百九十七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百九十八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第三百九十九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百十期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百十一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百十二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百十三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百十四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百十五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百十六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百十七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百十八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百十九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百二十期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百二十一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百二十二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百二十三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百二十四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百二十五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百二十六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百二十七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百二十八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百二十九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百三十期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百三十一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百三十二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百三十三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百三十四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百三十五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百三十六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百三十七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百三十八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百三十九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百四十期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百四十一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百四十二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百四十三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百四十四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百四十五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百四十六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百四十七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百四十八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百四十九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百五十期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百五十一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百五十二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百五十三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百五十四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百五十五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百五十六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百五十七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百五十八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百五十九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百六十期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百六十一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百六十二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百六十三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百六十四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百六十五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百六十六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百六十七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百六十八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百六十九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百七十期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百七十一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百七十二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百七十三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百七十四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百七十五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百七十六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百七十七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百七十八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百七十九期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百八十期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百八十一期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百八十二期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百八十三期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百八十四期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百八十五期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百八十六期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百八十七期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百八十八期事業　山地開發に關する調査研究の實施

第四百八十九期事業　山地開發に關する調査研

〝空の使節〟コンドル機
今朝河内に安着
素晴しい快翔ぶり
臺北にも入電

【大阪三十日發同盟】大阪中央電信局入電によれば訪日コンドル機は三十日午前十時十分(日本時刻)河内に安着した

【河内三十日發同盟】快速訪日コンドル機は三十日午前十時十分(日本時刻)第三航程の終點佛領印度支那の首府河内に安着した

訪日コンドル機は三十日午前十時十分(日本時刻)ハノイに到着した旨、同飛行場より臺北電信局に入電があつた

給油を終へ直ちに
東京へ向け出發
臺灣上空を通過せず

ハノイ飛行場より臺北電信局への入電によればコンドル機は同飛行場にて給油の上午前十一時四十分(日本時刻)同地發一路東京に向つた、東京着は三十日午後八時頃の豫定で臺灣通過は午後四時三十分乃至五時頃の豫定である、尚コースは一時頃の豫定で臺灣通過は午後四時三十分乃至五時頃の豫定である、尚コースは東海岸通過と西海岸臺南より上陸して海岸傳ひに臺北上空を通過するとの二つの豫定があるが天候の如何に依り何れとも判明しない

【河内二十九日發同盟】河内安着少し前直ちに給油機器の点檢を行つたコンドル機は三十日午前十一時四十分（日本時刻）河内を出發馬關訪日機關コースたる立川に向つて四千二百三十キロの航途につた

立川着は今夜

昨夜・カラチに到着
カラチに安着した
カラチまで廿二時間五十分

【カラチ二十九日發同盟】コンドル機は二十九日午後五時十分(日本時刻午後八時四十分)カラチに安着した

【カラチ二十九日發同盟】速コンドル機はカラチ飛行場に暫時機翼を休めた後印度標準時二十九日午後七時十五分(日本時刻午後十時四十五分)同地出發一路河内に向ひ飛び出した、ベルリン出發以來カラチ出發までの經過時間は二十二時間五十分、餘すコースは約八千三百三十粁である

緬甸上空を快翔

【ベルリン二十九日發同盟】訪日コンドル機の無着陸にされば同機はカルカッタより西北方五十粁の地点を北進中である

向け直轄機關コースをとり中央緬時二十九日午後十一時半（日本時三十日午前七時半）緬甸中部マンダレー北方

滿航のハインケル機
コンドル機を出迎ふ
防共に錦上華を添へる計畫

【更京二十日發同盟】一路日本へ向け長翔を續けてゐるコンドル機は發翌二十三粁、機長二十三・八五米の巨人機で航續距離は發翌二十三粁、機長二十三・八五米の巨人機で航續距離に比しても發長で六米、發元で八米大きくわれ領土を飛ぶ時間機としては初ての文字通の巨機で羽田飛行場の日本航空機格納庫には完全に入れ切れないといふ大きさである、同機と同じドイツの最新鋭機で昨年秋ベルリン發長で六米、發元で八米大きくわれ領土を飛ぶ時間機としては初ての文字通の巨機で羽田飛行場の日本航空機格納庫には完全に入れ切れないといふ大きさである、同機と同じドイツの最新鋭機で昨年秋ベルリン發

とする満州航空株式會社のハインケルII三一六型機が北支新鋭機の出迎へに飛ぶ友邦新鋭機の出迎へに

飛出し

コンドル機發着の更京における各國別飛行場を終つた後コンドルとハインケル兩機が滿洲國を經て防共ルート滿洲國を訪問することとなつた、コンドル機の歐亞飛行計畫は最初獨逸各新聞社機だけに限られてゐたものがハインケル機がドイツ出れであることから出動が慫慂されたもので同機は三十日中に新京より立川飛行場に飛來せられることになつた

なほ獨逸より同機をドイツから空輸し來た満航の中堅、佐藤操氏ではドイツに於ける人気は破れ勝乃至最新鋭機下の上空を飛ぶ友邦機の操縦士に先づ名誉の操縦を許して

家庭と婦人

歩行運動による保健上の効果は？

正しい歩き方をしませう

大いに歩け……と各方面で歩くことが奨励されて居りますが、この歩くということは、考様男女共にでも出来る、最も簡単な効果のある運動であります。

これが、保健上、いかなる効果を與へるかといひますと、元來、歩行は、主に腿部で發せられる運動でありますが、腿筋は全身の筋肉系統中その大半を占めてゐるので、それが運動する時には、上體の腹部、背部、腰部等の諸筋肉もこれに參加するので、殆ど全身運動となるわけであります。從つて血液の循環を盛んにし、呼吸を促進し、呼吸器、新陳代謝に極だた良好な影響を與へることになります。

又、歩行は、半ば自動運動でありますから、運動によつて大腿部の脂肪を燃え焼せぬので、腿の太さを減らすに最も不幸な運動をしてゐるまで。世界の日本として祖国再興の根源にありますが、この伸びゆく日本を産業戰士の體位として向上發展といふ點からも、歩行は一般に、これといつた方法を講ずることの必要なく、ただ一定距離を歩きさへすれば、保健的効果があるのでありますから、然しながらより正しい歩行の仕方をすることも必要であります。

先づ、服裝、履物等の關係から足先が外開し、所謂外輪に歩くもの、足先を内輪して内輪に歩くもの、又は、歩行能率の上からも、赤形靴下から見ても良くないことですが、ちかつた紙をたた時つたのは面白くなくつき貼りのやうになつてみつ

×

歩行は別に、これといつた方法を練習することの必要なく、ただ一定距離を歩きさへすれば、保健的効果があるのでありますが、然しながらより正しい歩行の仕方をすることも必要であります。

先づ、服裝、履物等の關係から足先が外開し、所謂外輪に歩くもの、足先を内輪して内輪に歩くもの、又は、歩行能率の上からも、赤形靴下から見ても良くないことですが、ちかつた紙をたた時つたのは面白くなくつき貼りのやうになつてみつ

次に歩行は、左右の腿が交互に支持脚となり、振動脚となりますが支持脚は緊張して全身を支へ、振動脚は反對にすつかり緊張を解き自然に前方に振り出されるやうにします。

そこで緊張と弛緩とが繰返され比較的勞することが殆んく、歩行の特徴があります。

×

ところが、振動脚になつてもなかなか力が抜け切らないで、兩脚とも緊張してゐる者が多いのですが、これは歩くといふことは、考様男女共にでも出来る、最も簡單な効果のある運動であります。

これが、保健上、いかなる效果を與へるかといひますと、元來、歩行は、主に腿部で發せられる運動でありますが、腿筋は全身の筋肉系統中その大半を占めてゐるので、それが運動する時には、上體の腹部、背部、腰部等の諸筋肉もこれに參加するので、殆ど全身運動となるわけであります。從つて血液の循環を盛んにし、呼吸を促進し、呼吸器、新陳代謝に極だた良好な影響を與へることになります。

又、歩行は、半ば自動運動でありますから、運動によつて大腿部の脂肪を燃え焼せぬので、腿の太さを減らすに最も不幸な運動をしてゐるまで。世界の日本として祖国再興の根源にありますが、この伸びゆく日本を産業戰士の體位として向上發展といふ點からも、歩行は一般に、これといつた方法を講ずること

開花三世相

(44)

村松梢風作
中一彌畫

大奥（8）

暮れる。

吹上のお庭の樹が鬱蒼と繁り、百鳥の声喧しく囀り囀りが聞いてゐる。其の樹蔭の苔よりも静かに、大奥は今朝からザワメキ立つてゐる。御殿の正面のお玄関には新車と御自所が並つてゐた。

其の左右に、お部屋様方、お年寄、中老の人々が並んでゐて、間もなく、それ〴〵の駕籠に乗つて見物してゐる大勢のお部屋様方の、老女達も内心ソワ〳〵してゐる。

其の光景は、百花繚乱を競ひ、万紫の花を競ふたごとく、今日を晴れと綺羅を飾り、野外の春は宮に満ち、御殿としては眼を奪はれるばかりだ。

お玄関には黒塀の際打つてある幔幕を張り廻して、御土の控所が出来てゐる。

が三名、正面に筵を敷いて坐つてゐる。やがて東西の間所から御土方が呼び出されると、其の姓名を書いた紙が張り出される。御土は一人一人、正面へ向つて「ハッ」と、それから両方へ別れて成る丈け遠く離れるのだ。

将軍の御目見と云つても、大抵で御目見になる時は、さう多度ではないから、御土も御臣の為に限られてゐた。大多数は旗本の子弟だつた。

すでに先刻から数名の武家があつた。

彼の間は頭目がつて見物してゐた武家も、大概武家と来ては苦手だから見ずに引きてしまつた。けれども将軍の御前だから御作法をすることもできず、かしこまつて見物してゐる振りをして、其の実間えないやうに小声で隣手なことを談り合つてゐる。

「チョイト組さん、あなた御組面白うございますの？」

「いいえ、ちつとも」

「それでも一生懸命、御目見になつてるやうぢやありませんか」

「いいえ、瞼眼をあいてゐるだけでございますよ、ほんに御組たてといふのは、強い方が勝つばかりで、ちつとも面白くございませんわ」

「時に、森山出てゐなんまり好い男は居りませんね、少しは御組は

其の名前を見ると、女達は、何んとなくそわ〳〵いた。将軍据方の名前は勿論云ふとなく大奥に知らせてゐた。

「将山の将軍様ぢや様の名前ですもつて、大抵判るといふ訳でございますよ」

フフ、それでは今度はよく観見しなくつては」

「相手方の米春といふ人はどんな人ですやう」

「それはよく存じませんけれど、何でもお役者の米春大郎様の一男だといふことですよ」

そこへ、重苦の御組の中から雨御土が現はれ、正面へ来て将軍様へ向つて恭しく御礼をした。

北京を訪れたターキー一行

米映畫「白雪姫」六百萬弗を稼ぐ

興行史の新記錄

ミツキー・マウスの生みの親で有名な漫畫界の大御所ウオルト・デイズニイが百六十万弗を投じて製作したFBOラデオ映畫「白雪姫」は今回二百封切られ御機を取つた四百万弗は世界最初のトーキー「ジンギンダール」の五百二十五万弗であつたが今回「白雪姫」が完全に破つた訳である

映畫製作従業員數

製作数能に於て世界第一位を占める我が映畫界の関係に関係する従業員はどの位居るか、昭和四、〇三一人となつてゐる。此のうち俳優は一

六一〇人（男一、〇五七、女五五三）監督は三四七人（内閣監督二六八）脚本作家は三八七人（内閣男一九七）の他仕上師二九一人（男二一二女七九）道具係六二七（男五四一女八六）でこれを興行関係を主とする映畫従業員別に示すと左の如くである

	人員	男	女
日活	九四四	五五一	四三
松竹九二一	二八五	四四	四一
新興七二四	四六	四六	四六
東宝（京都四六七）	二三三	二三三	四
東宝（京都四二）東宝	九三	八三	一〇
大都一四二	八	八	一
東宝（東京五五一）	四八	四八	一
合同	九四	八九	五
計	四八	四八	一

臺日漢詩壇（二）

審者　魏清德

詠史七言古詩大将　班賈勳

牛営大将死営神、戦国思君報身。父余口碑猶隙道、孤公前後引新人。

○　班固並

治績政口碑多感徳猶思報国恩。北伐図今懐諸葛、孤公前後引新人。

○　班佑藤

雅正堂仰偉治績感人心。退食閑来園中去。一郭文治。

○　班光華

牛羊下食望平岡。一片丹心装旭日。鳳凰双闕近千載万民感徳思。

○　李卜五

治績感徳感人深。碑表猶伝政化新。今日非常時局際、忠徳報国効誠真。

○　班光華

征伐雖偏漢武時、経綸無異管仲規。相州社子孫不絶、名垂千古頌遺徳。

○　張貞雲

文武才兼命世雄、経綸相国興邦功。国成帝業名猶著、解説英々識見公。

○　鄭福綿

我愛征伐出師表、表裏忠貞千古功。相州祠社門前過、不覚英雄淚満胸。

○　班少湖

昔佐命武英名、政績治績相輝明。時移二百年前後、感徳思恩如故情。

新映畫紹介

東寶映畫株式會社製作

チョコレートと兵隊

製作……小林一三
脚本……秋子勝
演出……佐藤武
撮影……吉野馨治
音楽……伊藤昇
製作主任……水谷徳平

配役

軍曹	藤原釜足
妻	滝村百子
息子	小国英雄
長男	一郎
長女千代子	藤立のぼる
岸よし子	高峰秀子
茂	斎藤良輔
内	若宮貞二郎
コンちゃん	水谷八重子
叔父	柳井隆雄
叔母	一ノ関綾子
吉	小西一郎
紙芝居の老人	伊福部昭
同	中川輝夫
製作部長	汐見洋
製作部副部長	津田光男

梗概

良家の邸宅の表地として有名な熊篠御屋敷の町はづれ、渡良瀬川の河畔も程近いところに平和な農村一家の住居があつた。父の遺影と先祖の位牌へ

報告にも敬虔な祈願を捧げて、朝夕の煙は茶でにロードつきの内殿をして、天照と十歳になる一郎と六歳の千代子との四人家族の生計をたてるといふ、慎しながらも一家水入らずの楽しい家庭であつた。

冒頭の場は一の楽しみは、晴れた日曜などに子供二人と、印刷所の製図子も加へ渡良瀬川に釣糸を垂れる教師間の三時頃だ。しかも獲物がなくハゼの北位も釣れたほどその夜の晩酌の肴もまた一しほ、

心配の種だつた。

もう一つの楽しみは、チョコレートの紙の裏に書いてある標語の点数を集めること、これは百点満点まると兵隊さんにチョコレート一つに代へてくれるやうになつてゐる道理は一郎の楽しんで集めてゐるのをみて、うまく考へたもんだと感心したことがあつた。

軍本部に、ある日召集令が下つた。

姿勢会に集まつた人々も暫く千代子の慶れた横顔の様子を直し、台所の天窓を覗いた。

軍曹、町の人々に盛大に送られて軍本が立つ時、一郎は酒好きな父に酒を一つ勧めた。

軍本が上海に着いて以来、戦地に秋が来、やがて冬が来た。彼は、兵隊慰問まで慶州府の酒で苦つたといふ戦友行と知り合つた

ヨコレートの紙を集め始めた。彼の軍隊手帳の間に、チョコレートの紙が溜つていつた。彼はそれを楽しんでみた戦友も理由を聞いては彼に協力した。

軍曹の戦友行は世界最初のトーキー「ジンギンダール」の五百二十五万弗であつたが今回「白雪姫」が完全に破つた訳である

映畫製作従業員數

製作数能に於て世界第一位を占める我が映畫界の関係に関係する従業員はどの位居るか、昭和四、〇三一人となつてゐる。此のうち俳優は一六一〇人（男一、〇五七、女五五三）監督は三四七人（内閣監督二六八）脚本作家は三八七人（内閣男一九七）の他仕上師二九一人（男二一二女七九）道具係六二七（男五四一女八六）でこれを興行関係を主とする映畫従業員別に示すと左の如くである

	人員	男	女
日活	九四四	五五一	四三
松竹九二一	二八五	四四	四一
新興七二四	四六	四六	四六
東宝（京都四六七）	二三三	二三三	四
東宝（京都四二）東宝	九三	八三	一〇
大都一四二	八	八	一
東宝（東京五五一）	四八	四八	一
合同	九四	八九	五
計	四八	四八	一

海外映畫短信

△マーヴイン・ルロイ提初のプロデユースによるメトロ映畫ロバート・シンクレア監督ルイズ・レイナー、アラン・マーシャル、ボレット・ゴッダード主演の「偶像学校」は現在撮影に入り近く完成を告げた

△レオ・マッカレイ監督のRKOラデオ第一回作品「ラヴ・マッチ」はブイリーン・ダン、シャルル・ボワイエ、ダヴイツド・ナイバン主演で撮影を開始した

△ジユームス・スモール・プロとスモール・プロとの契約し同プロの「ユナイトに提供する「國境の男」の監督を担当することになつた

△スタン・ローレルとの契約を解消したハル・ローチ・プロはオリヴア・ハーデイとハリー・ラングナーで共演これを分離してテキサス州ラウンスヴイルに送り共同に往年のドツボ市を再現すると

△ユナイトを通じて配給するユナイトではオリヴイア・デ・ハヴイランド主演で西部開拓者の物語「ドッヂ市」を総天然色映畫で製作することになつた。デ・ハヴイランドの相手役は未定だがワーナーでは往年のドツヂ市金髪のセットを作りこれを分離してテキサス州ラウンスヴイルに送り共同に往年のドツヂ市を再現すると

△大都公認撮影所で朝子を演じ下さいました個人に限く御招待します（期間六月一日より）▲一月一日より日山崎様から御招待状が参ります（日本時間二十八日午後十一時五十五分）ケンベルホーフ飛行場ヲ出發二十九日午後五時十分（日本時刻午後八時四十分）カラチニ安着シマシタ

商況（二十日）

臺灣米市場

前場

限	中	先
十二月	二、四〇	二、三〇
同十日	二、三〇	二、三〇
同十五日	二、三〇	二、三〇
同二十日	不申	二、三〇
同二十五日	不申	二、三〇

中場

限	中	先
十二月	二、四〇	二、三〇
同十日	二、三〇	二、三〇
同十五日	二、三〇	二、三〇
同二十日	不申	二、三〇
同二十五日	不申	二、三〇

正市公定相場

▲期逢築

限	中	先
十二月	二、三〇	二、三〇
同十日	二、三〇	二、三〇
同十五日	二、三〇	二、三〇
同二十日	不申	二、三〇
同二十五日	不申	二、三〇

▲期丸橋

限	中	先
十二月	二、三〇	二、三〇
同十日	二、三〇	二、三〇
同十五日	二、三〇	二、三〇
同二十日	不申	二、三〇
同二十五日	不申	二、三〇

基隆在庫米

▲出港船合計一、二五一俵

大阪期米前場

限	中	先
十二月限	二、三〇	二、三〇
一月限	二、三〇	二、三〇
二月限	二、三〇	二、三〇
三月限	二、三〇	二、三〇

大阪砂糖現物

分蜜M号（一〇斤入）

限	中	先
四月限	九、三〇	九、二〇

株式社債

銘柄	中	先
東京電燈社債	九八、四〇	九八、四〇
東京瓦斯社債	九八、四〇	九八、四〇
東京地下鉄社債	九八、四〇	九八、四〇
東京市公債	九八、四〇	九八、四〇
東京市公債	九八、四〇	九八、四〇
東京市公

（舊二版）　（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）　昭和十三年十二月一日（水曜日）　臺灣日日新報　第一萬三千九百二號

臺灣日日新報

本日夕刊共十二頁
編輯兼發行人　佐々木　亮
臺北市表町二丁目三番地
社報新日日臺週刊所
社說　科學　婦人　家庭　文藝　讀者　學藝　運動　經濟　一行詩　同人　圖書　映畫　演藝　放送　番組　廣告　本社定價　一部金四錢　一ヶ月前金拾七圓　一ヶ年金八拾四圓（日本國內及外國郵送料共）
廣告　代表九八〇二番　編輯局　一〇五三番　營業局　一〇五四番　印刷局　二一〇六番

社說

國民組織の再編成と政府

新黨運動と併せ進むが常道

一

國民組織の再編成という問題が心に放置されてゐた新黨問題が、都ちにして轟轟を來し、今日では政府と何等かのきめで無いとの先手を打つてゐる。又政友會が、急に政治の進め方に就ても、新しい言ひ廻はしに今まで唱り出されてゐない國民の間には、"この運動は、國民を幾別させて居いて、號令を以て進退させるのだらうか"などいふ幼稚な言葉も聞かれてゐる。それは兎に角として、現內閣の一部から發心に放置されてゐた新黨問題が、都ちにして轟轟を來し、今日では政府と何等かのきめで無いとの先手を打つてゐる。又政友會が、急に政治の進め方に就ても、新しい言ひ廻はしに今まで唱り出されてゐない國民の間には、"この運動は、國民を幾別させて居いて、號令を以て進退させるのだらうか"などいふ幼稚な言葉も聞かれてゐる。それは兎に角として、現內閣の一部から發心に放置されてゐた新黨問題が、都ちにして轟轟を來し、今日では政府と何等かのきめで無いとの先手を打つてゐる。又政友會が、急に政治の進め方に就ても、新しい言ひ廻はしに今まで唱り出されてゐない國民の間には、"この運動は、國民を幾別させて居いて、號令を以て進退させるのだらうか"などいふ幼稚な言葉も聞かれてゐる。それは兎

二

國民組織の再編成という問題が、政治運動を新にして頂りに唱導されてゐる。新しい言ひ廻はしに今まで唱り出されてゐない國民の間には、"この運動は、國民を幾別させて居いて、號令を以て進退させるのだらうか"などいふ幼稚な言葉も聞かれてゐる。それは兎に角として、現內閣の一部から發心に放置されてゐた新黨問題が、都ちにして轟轟を來し、今日では政府と何等かのきめで無いとの先手を打つてゐる。又政友會が、急に政治の進め方に就ても、新しい言ひ廻はしに今まで唱り出されてゐない國民の間には、"この運動は、國民を幾別させて居いて、號令を以て進退させるのだらうか"などいふ幼稚な言葉も聞かれてゐる。それは兎

三

結論を急ぐ。此の問題に對する政府の見解は次の通りである。若し國民大衆が現に直面してゐる現下の時局に對して、既に其の重大なる意義を深く認識するならば、凡ての雜念も良き意味に消して、その歩調は自然に一致するであらう。國民は一體となつて、現下の重大時局に當つて來て、且つこの際擧國一致、政府人を一參下に結合を組織して、政府人を一參下に結合した所が、野武士が多に加勢すみの世下に變る事もないとの見極めに依つて、中央議會の開會前に、政府と政友會の間に、何等かの話合ひが行はれたものと想像されるが、これより先、政友會の各長老衆に手に手に「擧國一致」の小旗を押領しながら國民運動に詰めかけ、或は無數の團體に依る

臺灣東部の山地開發

督府同調査委員會で要綱決定

……（上）……

三千呎の第三回山地開發調査委員會で議題となれた十三年度山地開發調査及び蕃地地方山地の開發調査綱要、山地開發及蕃地開發調査委員會規程は左の如く決定された

(一) 山地開發調査

十三年十一月乃至の期間

昭和十二年一月第一回山地開發調査委員會の決議に基き先づ第一回山地開發調査を行ひ、其の結果を基礎として昭和十三年四月一日より六月三日に至る四十五日間を以て東部地方山地一帶即ち花蓮港廳下及び臺東廳管内、新港郡以下の山地四五、三二〇呎の現狀調査に着手したが今回の調査は從來の調査と異り單に山地の開發に關する調査のみならず、蕃人の教化、蕃地の經營、蕃人の使用等蕃地開發に關する一切の調査を行ひ、而して之等の調査は相關聯して行ふ必要あるを以て、之を一括して調査せしめることとし、該地の經營關係を考慮せしめることとし、該地の經營關係を考慮せしめることとし、該地の經營關係を考慮

（第三種郵便物認可）

科學

栽培技術の大飛躍
導馴と接木の妙法
臺灣生ゴム樹栽培論……（九）

農學博士　佐多長春
殖産局農事試驗場勤務部農學科

次に知る人も知る事柄であるが本來此植物は、原始狀態の物であり、野生、濕地に生育するのは本質的には喬木とされて居る。從るに栽培植物は勿論、野生も餘り多く無い、彼の北米合衆國に於いては幾多世界の栽培生産を、從來のフロリダやカリフォルニヤの如き亞熱帶地域以外の、所謂、溫帶に近接大分栽せしめんと企圖しつつあつた。

此の困難なる目的を遂ぐる爲めに、幾多の試驗が行はれ、其の結果發表されては、然と許木部が發見、報告に屆される事の多い事を聽へ、米國の植物學者間數を擴張する爲めには、耐寒、耐凍性の强力なる品木と成る可き植物を得て、降折の勞苦に屈撓せしめねば成らぬと云ふ如き科學を得た。

そして米國植物學界の權學、スキングル博士は、かかる目的の爲めに我が國に來朝し、彼の野生植物「カラタチ」即ち「橘」が、日本に於いては、仙台地方の如く北部地方に於て、冬期に對して生育するを見て「アメリ米國が最も求めしものと」と叫び、之を直ちに米國に携へ歸り、その實驗に成功するや、從來本種を多數輸入增殖し夫等を砧木として、米國優良柑橘の大部分に、接木せしめたのである。

かくて數年の後、苦心慘憺した結果、遂に米國柑橘業は、「カラタチ」の發見に依つて、北米合衆國の柑橘業及び柑橘栽業は、氣候的制約を脫却して、全體的に百里乃至數百里の北方に進展して、その經營に新しい地位を確立したのである。之こそ科學的發明と進歩的經營に依つて、植物學者の偉度の北限を上昇的に變化した適例に外成らない。

今日世界を風靡するゴム事業の對象物たるパラゴム樹が、南米アマゾンの原始林より苦心採集され、多くの失敗苦心の後、シンガポールの植物園に移植されたに端より全馬來半島に擴張し、シヤム乃至佛領印度支那は勿論、遠く北緯

科學の戰士（一）　人類、殊に人類のために科學の研究に沒頭する、米國ベルツヴィル農事試驗所を訪れて、科學者と語る長岡博士と弟子

科學者のノート
丸橋忠彌のキセルの價値

生山人彌

有名なコロンブスが、當時まで未知の大洋として恐れられてゐた大西洋の荒濤を、越えてアメリカ大陸を發見し、不朽の名を史上に止めたのは、西暦一四九二年のことであるが、このコロンブスの大發見に關しては種々異説があつて、未知の大洋に乘り出した當時の記錄及び歴史家の間に非常なセンセーションを捲き起してゐる。先づイギリス丸發見された記錄と稱するものがある。

イギリスのデューク大學の歴史學部長であるウオルター・ゼーレイ敎授は、コロンブス以前二世紀の頃に既に水夫達は羅針儀を用ひて航海してゐたといふ有力な證據を發見した。

◇

その手がかりといふのは一二二七年に死んでゐるアレクサンダー・トウラ・レルムと呼ぶ古文書中の一節に、次のやうな記載があるといふ。そこには磁力作用そのものと、羅針儀について簡潔ひかえめな、然し無駄のない敍述がなされてゐる。

「さて、水夫達はその航海に際して、磁石と名づけられた針を使用して、たとひ、暴風雨の夜、或は霧の深い晝間でも、決して方向に迷ふことなく、一體水夫達はどの方向に船を向けたらいいか全然判らなくなつたとき、或は夜の闇が下りて宇宙をすつかり押し包んだ時、星の世界となつてしまつたりしたやうなとき、そんなとき、かくして一體水夫達はどの方向に船を向けたらいいか全然判らなくなつてしまつたときには、二つの磁石を持つ出かる。その磁石は鉛形で、一つの磁石を上手くぐるくると、どちらへでも廻轉出來やうになつて居り、從つてその磁石の針が、しばらく動いた後、やがて靜止したところを見れば、その指す方向が北に當るといふことが判るのである」

◇

更にこのネックマンは、他の著述の中でも羅針儀のことについて記して居り、そこでは羅針儀のことを、水夫が航海に用ゐるところの「二つの針の上に天られた磁石」といふ說明を與へてゐる。

同じく十二世紀の著述家で、羅針儀について書いてゐるもう一人のイギリス人は、ウイリアム・クラークといふ詩人（僧侶）であるこのウイリアム・クラークの詩の中の一節は、次のやうな意味を以て飾られてゐる。

「晨靄が空を覆ひ、ひどく暗くなつたとき、又は雲が空を覆ひ、星の光りさへも見えないとき、水夫達は羅針儀を用ひて、その船を安全に導くのである」

◇

これらの記錄によつて知られるやうに、羅針儀を全然それまでなかつた新しい發明として取扱ふべきではなく、それが既に當時廣く用ひられてゐたものとして、認めてゐることは明らかである。

コロンブス以前に
羅針儀は存在した！
（上）
事實を裏書する古文書

山人

紀の頃に既に水夫達は羅針儀を用ひて航海してゐたといふ有力な手がかりを發見した。

◇

その手がかりといふのは一二二七年に死んでゐるアレクサンダー・トウラ・レルムと呼ぶ古文書中の一節に、次のやうな記載があるといふ。そこには磁力作用そのものと、羅針儀について簡潔ひかえめな、然し無駄のない敍述がなされてゐる。

「さて、水夫達はその航海に際して、霧へ或は晝間でも、決して方向に迷ふことなく、一體水夫達はどの方向に船を向けたらいいか全然判らなくなつたとき、或は夜の闇が下りて宇宙をすつかり押し包んだ時、星の世界となつてしまつたりしたやうなとき、そんなとき、かくして一體水夫達はどの方向に船を向けたらいいか全然判らなくなつてしまつたときには、二つの磁石を持つ出かる。その磁石は鉛形で、一つの磁石を上手くぐるくると、どちらへでも廻轉出來やうになつて居り、從つてその磁石の針が、しばらく動いた後、やがて靜止したところを見れば、その指す方向が北に當るといふことが判るのである」

◇

更にこのネックマンは、他の著述の中でも羅針儀のことについて記して居り、そこでは羅針儀のことを、水夫が航海に用ゐるところの「二つの針の上に天られた磁石」といふ說明を與へてゐる。

同じく十二世紀の著述家で、羅針儀について書いてゐるもう一人のイギリス人は、ウイリアム・クラークといふ詩人（僧侶）であるこのウイリアム・クラークの詩の中の一節は、次のやうな意味を以て飾られてゐる。

「晨靄が空を覆ひ、ひどく暗くなつたとき、又は雲が空を覆ひ、星の光りさへも見えないとき、水夫達は羅針儀を用ひて、その船を安全に導くのである」

而も「コロンブス」は特に羅針儀なくしては實施困難な大洋航海に對して、羅針儀を用ひて、馬來半島に於い

麗人荘

（禁上映）

竹田敏彦作

伊勢良夫畫

母の戀（四）

「斷りましたわ、お姉さん……」

章子の話が、一と通り終ると、綺紗子は、やっと安心の顏をとりかへした。

「あらましは、まアそんな順序なの……今にして思ふと、あの夏、避暑地で若旦那からお言葉に從つておけば、その時からあんた方は、立派にあの方の子供になつて、今日のやうな惱みは見なかつたかも知れないけど、お姉さんにすれば、もう既に自分が汚れた體だつたし、あんた方といふ二人の子供もあるのに、おいそれとお言葉に甘へることは、朝倉さんとも相濟まないばかりでなく、万一後になつて、朝倉さんが、後悔でもなさるやうなことがあつては、第一あんた方に冷たい氣持をさせたければならないし——さういふ點に考へ過ぎたのが、却つてお惡どいお姉さんの失策だつたわけ……」

「ほんとにねえ」

綺紗子も心から洩らしたが、

「でも、そこにまたお姉さんのいいところがあつたのよ……私、それだけ伺つて、お姉さんの本當の愛を見たやうな氣がしますわ。ほんとにお姉さんこそ、愛敬の塊母よ」

「まあ、何を言ふの……お姉さんは、あんまりに、ほんとに濟まないと思つてゐるのに……」

「いいえ、こんなお話なら、もつと早く伺つておけばよかつたわお姉さんは、何でも遠慮し過ぎるのね……私なんかそこへ行くと遠慮過ぎますわ。それもお姉さんの立場でわ……今日まで私達の為に、そこまで聽つてくだすつたことを考へると、綺紗子のこんとの問題なんか問題しちや勿體ないわ。私、お姉さん、强くなりますわ。」

「そんなに思つてくれる……章さんは、人からは、どんなに思はれようと、褒めてゐるけれど、心配なのはあんた方から、もし變な噂されたり、惱まされたりしたら……それが許されたら、どんなに嬉しいでせう……」

綺紗子は、言葉を續して、章を勵ました。

「いつか、打明けようと思ひながら、それを言ふには、今日までの經緯を打明けねばわからないし、もし、そのため折角今日まで何も知らずに、幸福に育つてきたあんた方が、今もいふ通り、母さんの過去や、自分の身の秘密を知つて、不幸な境遇に沈んだり、お母さんに對する感情を失ふやうなことがあつたら、それこそ何うしようかと、その心配で、今日まで母さんにも話せなかつたのよ……」

章子は、今となつては、いかにもそれが幾分さうに違ひないと思つた。

「ほんとにお姉さんこそ、愛敬の塊母よ」

「まあ、何を言ふの……お姉さんは、あんまりに、ほんとに濟まないと思つてゐるのに……」

「いいえ、こんなお話なら、もつと早く伺つておけばよかつたわお姉さんは、何でも遠慮し過ぎるのね……私なんかそこへ行くと遠慮過ぎますわ。それもお姉さんの立場でわ……今日まで私達の為に、そこまで聽つてくだすつたことを考へると、綺紗子のこんとの問題なんか問題しちや勿體ないわ。私、お姉さん、强くなりますわ。」

「そんなに思つてくれる……章さんは、人からは、どんなに思はれようと、褒めてゐるけれど、心配なのはあんた方から、もし變な噂されたり、惱まされたりしたら……それが許されたら、どんなに嬉しいでせう……」

綺紗子は、言葉を續して、章を勵ました。

「いつか、打明けようと思ひながら、それを言ふには、今日までの經緯を打明けねばわからないし、もし、そのため折角今日まで何も知らずに、幸福に育つてきたあんた方が、今もいふ通り、母さんの過去や、自分の身の秘密を知つて、不幸な境遇に沈んだり、お母さんに對する感情を失ふやうなことがあつたら、それこそ何うしようかと、その心配で、今日まで母さんにも話せなかつたのよ……」

章子は、今となつては、いかにもそれが幾分さうに違ひないと思つた。

「ほんとにお姉さんこそ、愛敬の塊母よ」

「まあ、何を言ふの……お姉さんは、あんまりに、ほんとに濟まないと思つてゐるのに……」

「いいえ、こんなお話なら、もつと早く伺つておけばよかつたわお姉さんは、何でも遠慮し過ぎるのね……私なんかそこへ行くと遠慮過ぎますわ。それもお姉さんの立場でわ……今日まで私達の為に、そこまで聽つてくだすつたことを考へると、綺紗子のこんとの問題なんか問題しちや勿體ないわ。私、お姉さん、强くなりますわ。」

綺紗子は、瞼を濕らしながら心から言つて、母を見上げた。章子

抗日の經濟的命數

軍糧資力七割を失ふ

A・B・Z

女性の觀た貧困ソ聯の全貌

米紙に現はれた視察談

（137）

武漢、廣東の失陷によつて蔣政權の運命は定まつた。その外交的既成事實はとまれ、政權機構が各地に分散した事によつて、國民政府各要人は益々の繁忙を加へ、政權機構が各地に於ける時局に備へて手兵を統率するの態度に變じ、國民黨の共產黨に對する牽制を緩り、兩黨の對峙は漸く表面化して來たが、それにもまして今後の國難は實に重慶政府の九割以上に失つたことにある。從つてこれで經濟する一百万の兵を如何にして養ふか……

◇

蔣政權下の經濟的基礎は、漢口陷落の失敗と今日では檢挍の相違がある。例へば關稅收入に關しても、兩世界大戰前は年七千八百万元即ち全支總收入の二割六分の收入ある地點を占めてゐたが、それにもまして今後の國難は實に重慶政府の九割以上に失つたことにある。即ち重慶政府は全支總收入の九分に縮小された。蔣政權は今春來、禁止的な為替統制策をなし、重慶政府以外は禁止的に入關を行つて物資は月額一千万元の出超となり、その結果外貨に依力を生じたので、先般來毎日香港に資金を通じて十万ポンド以上の外貨買ひも何等不思議はないと言つてゐるが、全支港關及び通關分所百三十餘のうち約百を失つた今後の關稅は、嘗て比較の外はあるまい

◇

蔣政權の各政府機關が、重慶、昆明、新疆等に分散した所から見て、今後、南の物產豐富な雲南、貴州、廣西の五省のみが蔣政權下に置かれるものと觀られる。今、右の5省の人口を擧げると、雲南、貴州、廣西、四川、湖南、江西、雲南、貴州、廣西、四川、湖南、江西、雲南、貴州、廣西、四川、湖南、江西

けふ！防火デー
各地で宣傳行事實施

高雄　【高雄電話】高雄署では十二月一日の防火デーに當り消防組は勿論町内會、防火組及各私設消防組織約二千餘名を總動員し防火宣傳行事を實施する筈に決定、先づ午前八時高雄神社前に全員集合、令旨奉戴式防火祈願祭を執行した後、消防組事務所前の廣場で人員機具の点檢及役員組織の変更それより「防火デー」と白く染抜いた赤襷も勇しく全員自轉車に跨がり市内大通りを縦横と觀く「宣傳行列」を行ふ一方、各署毎に「火の用心」の防火バケツに滿水して備へつけしめ市民の協調を圖る等尚正午からは吉井デパートに於て模擬防火救助實習をなし午後病院工場等に對しても各自實習を行はしめ夜は派出所を單位に防火講演會を開催する

防火避難演習
けふ小公校で

【高雄電話】一日防火デーに當り高雄市各小公學校並に實業補習學校では朝時、防火施設實習その他各種行事を實施し時局柄兒童を通じ市内各家庭に防火の認識に拍車をかける事となつた

嘉義
【嘉義電話】支那事變も愈よ長期建設の段階に入り全島擧國一致總動員體制の強化を圖り國民精神總動員運動の徹底と防火の思想普及並に防空防火の認識昂揚地方では火災に依る損失は年々十万円を突破し時局柄容認出來ざるので當當局では十二月一日を期し管内消防組員並一般防火協力團體を總動員して大々的防火宣傳運動をなすが當日の實施プランは
一、午前七時半全員擧銃喇叭隊を先頭に國防防火市街をなす前觸を實施内にて全員集合式を擧行
二、午前八時半より各消防組員の防水演習をなすと共に市内各所に機動部隊下の認定の下に防火演習をなす
一、各校にて防火に關し講話、避難演習をなす
一、午後一時全員擧銃に依る防火宣傳車を編成市内行進をなす
一、夜は特に防火宣傳標語を記入せる提燈を携帶し夜警を實施す

員林防火宣傳
【員林電話】台中州員林郡では一日の防火デーに際し國民精神總動員の趣旨徹底と防空防火の認識を深め一般防火協力團體を總動員して防火宣傳を行ふ筈で左記の如く實施する
一、午前七時半より各員擧銃喇叭隊を先頭に國防防火市街をなす
一、午前八時半より各消防組員の防水演習をなす
一、各校にて防火に關し講話、避難演習をなす
一、午後一時全員擧銃に依る防火宣傳車を編成市内行進をなす
一、夜は特に防火宣傳標語を記入せる提燈を携帶し夜警を實施す

軍事援護大會
きのふ　終了後各施設視察

【員林電話】全員擧銃喇叭隊を先頭に午前九時より前日に引續き實員各役員研究部會を開催して十時三十分より員林公會堂に於ける總動員の下に移り員林國民學校講堂に於て午前十時より員林郡國防婦人會聯合會主催の軍事援護大會を開催し午後一時三十分より散會した

【員林電話】台中州員林郡では一日の防火デーに際し國民精神總動員の趣旨徹底と防空防火の認識を深め一般防火協力團體を總動員して防火宣傳を行ふ筈で左記の如く實施する
一、午前七時半全員擧銃喇叭隊を先頭に國防防火市街をなす前觸を實施
二、午前八時半より各消防組員の防水演習をなす
一、各校にて防火に關し講話、避難演習をなす
一、午後一時全員擧銃に依る防火宣傳車を編成市内行進をなす
一、夜は特に防火宣傳標語を記入せる提燈を携帶し夜警を實施す

員林防火宣傳

（全面廣告）

闘病實話

半身不隨の中風病を拗倉は斯うして手當した

快方後の松井順惠師

岡山縣中新山都中加茂村堀江

竹願寺住職　松井順惠

私は昭和九年十一月十一日より十六日まで岐阜縣某所別院の説教大會に於て、御同朋會の御總會のもとに御遠忌法要に關し中新川と婦人部の巡回講師として活動中、十二月二十日頃より左半身不隨の中風病の身となり、何分用先きの事とて不自由の極みで、色々と親戚の方々の御厚意を受けましたがなか〳〵思ふやうになりません。

時恰も御遠忌を控へ、遂に單身不能

東江南岸の大討伐戰記
南下する敵を猛追撃
英租界まで追ひ込む
賓安縣城に日章旗翻る

【賓安にて濱中本社特派員】前段〇〇と〇〇に設けて大掃蕩戰が所期の通り開始され、記者も兵と共に參加從軍して一路英佛租界の國境線迄進出、馬仔巢窟なる掃蕩戰の狀況を見る事が出來た、掃蕩戰の序幕は〇〇部隊（一部）によつて十八日頃より石龍を中心とする附近一帶の狩り立てが行はれ、殘りて二十二日よりは同部隊が石龍を出發、一路横村、農行の線を進擊しその一部は德慶線によつて廣州灣經由本隊に合しまた他の〇〇部隊は縣城より南下敵を追撃しつつ細の如く敵と英租界の境界線迄進擊とは反對の方向により鄧ら〇〇部隊は山間地帶の線に沿つて狩り進らしの敵を擊滅、或いは土民の襲擊を行ひつつ夫々の地点に到達したものであつてその間かなりの戰闘も行はれたが、概して敵には戰意なく英租界境界線に右往左往する大部隊の敵狀は實に哀れを止めた、最も激戰のあつたのは〇〇部隊にあつては大朗墟手前の來龍、大嶺、新村附近一部海岸線沿岸の部隊では南方地点、又左側の〇〇部隊（一部）によつて十八日頃より石龍を中心とする附近一帶の狩り立てが行はれ、殘りて二十二日よりは同部隊が石龍を出發、一路横村、農行の線を進擊しその一部は德慶線によつて廣州灣經由本隊に合しまた他の〇〇部隊は新村

全國的一元化へ
日本庭球協會臺灣支部生る
全島庭球界を統制

台灣庭球界の統制機關として從來台灣庭球協會と臺北庭球聯盟と併存し學生庭球界を統制すべく生れた台灣學生庭球聯盟があつて各々その範圍の指導分野に於て任に當つてゐたが日本庭球界全般に對する連絡に於て直接的な機關がなかつたので今回日本庭球協會の加盟團體として台灣支部の創設を見るに至り今後は臺灣支部が台灣庭球界の統制機關となることとなつた、尙臺灣支部は臺北に事務所を置き臺北帝大醫學部內北支所、台灣銀行庭球部、台北帝大庭球部、台北高等學校庭球部、台北商業庭球部の八團體を加盟團體として結成され台灣支部委員には台灣總督府體育主事飯沼好會、三井物產臺灣支店庭球部、台北帝大庭球部、台北高等學校庭球部、台北商業庭球部の代表者が就任した、台灣總督府體育主事飯沼好會氏は日本庭球協會台灣支部の異動團體にあり庭球に於ても指導的地位に在るわけである

日本庭球協會臺灣支部規則

第一條　本會は日本庭球協會臺灣支部と稱す

第二條　本會は全島庭球の統制に關する一切を統轄す

第三條　本會の事務所は臺北市文部省內に置く

第四條　本會に左の役員を置く
支部長一名　副支部長二名　評議員若干名　支部長之を選任す
評議員若干名　支部長之を委嘱す
內二名を常務委員とし常務委員中一名を以て之に充つ

第五條　支部長は本會を代表し會務を總理す
副支部長は支部長の命を受け會務を處理し支部長故障ある時之が代理す
常務委員は會務の中心となり支部長副支部長を補佐し會務を處理す
評議員は會務に關し支部長の諮問に應じ且つ必要と認むる事項に關し意見を具申す

第六條　本會に左の部を置く
庶務部　會計部　競技部
各部に部長一名を置き支部長之を委嘱す
各部に必要の部員を置き支部長之を委嘱す

第七條　本會に左の役員を置く
顧問若干名　支部長之を推薦す
參與若干名　支部長之を推薦す
評議員若干名　支部長之を委嘱す
常務委員若干名　支部長之を委嘱す

第八條　本會は每年一回定期總會を開催す必要に應じ臨時總會を開催す

第九條　本會の經費は會費寄附金其の他諸般の收入を以て之に充つ

第十條　本規則の改廢は評議會の決議を經て本庭球協會の同意を求めて之を行ふ

日本庭球協會臺灣支部役員

支部長　西尾壽造（台灣銀行）
副支部長　大島一郎（台北帝國大學）
幹事　根岸勝治（台北帝國大學）
同　田那邊隆雄（總督府）
同　村橋昌二（台北高等學校）
同　北川渉（台北帝國大學）
同　金子省吾（台北高等學校）
同　植田貞二（台北商業學校）

顧問　山本善治（總督府）
同　武井匠（台北帝國大學）
同　片山良行（台北帝國大學）
同　井物產會社）
同　北川渉（台北帝國大學）
同　田淵實夫（台北高等學校）
同　伊藤慎吾（台北商業學校）

評議員　加藤五一（三井物產會社）
同　上野泰次郎（三井物產會社）
同　一九二（三井物產會社）
同　松本雄吉（三井物產會社）
同　遠藤圭馬（總督府）
同　九二（總督府）
同　十倉敬次（台灣銀行）
同　片山良行（台北帝國大學）
同　清井勝六（台北帝國大學）
同　松本雄吉（三井物產會社）
同　遠藤圭馬（總督府）
同　十倉敬次（台灣銀行）
同　片山良行（台北帝國大學）
同　清井勝六（台北帝國大學）
同　松本雄吉（三井物產會社）

臺北正弓團優勝
二位は屏東弓道會
第三回全島弓道通信競技

台灣弓道聯盟主催第三回全島弓道通信競技は二十日夫々各地で奉行された台北正弓團が四百八十五中で優勝した、團體及び個人成績は次の如くである、尙第四回競技會は明年二月十九日を期して行はれる筈

1 臺北正弓團（二五中）
2 屏東弓道會（二三中）
3 臺中支部團（二〇中）
4 高雄青友團（二〇中）
5 花蓮港支部團（一九中）
6 新竹支部團（一〇中）
7 桃園弓道場（九中）
（定員四名）

臺北正弓團（參加一六名）
1 岡井信行（四中）
2 久米芳治（四中）
3 關江（四中）
4 鈴保（四中）
5 橋田（四中）
6 市川（四中）
7 武末（四中）
8 甲斐勇（四中）

屏東弓道會（參加一四名）
1 廣田（四中）
2 秦吾（四中）
3 水間（四中）
4 神永太郎（四中）
5 佐田正吉（四中）
6 荒井助道（四中）
7 森慶吉（三中）
8 島中謙之丞（三中）

臺中支部（參加一二名）
1 原口（四中）
2 河合（四中）
3 平（三中）
4 吉野（三中）
5 甲斐（四中）
6 八木（四中）
7 重野（四中）
8 池田（三中）

高雄青友會（參加一二名）
1 原（四中）
2 三浦（四中）
3 佐藤（四中）
4 神永（四中）
5 松本（四中）
6 荒井（四中）
7 井上（三中）
8 阪口（三中）
9 立松（三中）
10 村岡（三中）

花蓮港支部團（參加一九名）
1 大野佐吉（一九中）
2 花舘正行（一六中）
3 小川章（一五中）
4 永井實好子（一四中）
5 上村西藏（一四中）
6 面吉松（三中）
7 茅野照男（九中）
8 鈴木徹也（九中）

新竹支部（參加二名）
1 齋里武藏（一八中）
2 中西俊夫（一六中）
3 高澤佐太郎（一四中）
4 篠野忠男（一二中）
5 大塚千太郎（一二中）
6 島貞次郎（一一中）
7 島貞次郎（一一中）
8 熊遠鶴（一〇中）

桃園弓道部（參加九名）
1 橋本正好（七中）
2 大野乙吉（一四中）
3 小島正雄（一三中）
4 松岡房太郎（一二中）
5 野崎榮（一〇中）
6 本田與市（九中）
7 越智勇輔（九中）
8 島田正勝（九中）

二百米自由形

十傑中島　今年度　一分三秒四五
昨年度　一分三秒四五

1 三浦（屏東）
2 宮間（屏東）
3 小枝（花蓮港）
4 飯島（屏東）
5 谷口（臺中）
6 立松（臺中）
7 井上（臺中）
8 甲斐（臺中）
9 阪口（臺中）
10 村岡（臺中）

四百米自由形

十傑中島　今年度　六分四秒四
昨年度　六分四秒四

1 三浦（屏東）
2 宮間（屏東）
3 小枝（花蓮港）
4 飯島（屏東）
5 谷口（臺中）
6 立松（臺中）
7 井上（臺中）
8 阪口（臺中）
9 立松（臺中）
10 村岡（臺中）

女子水上十傑
日本水上聯　公表（1）

五十米自由形

十傑中島　今年度　三十秒
昨年度　三十秒

1 大野（花蓮港）
2 花舘（花蓮港）
3 小川（屏東）
4 永井（花蓮港）
5 上村（花蓮港）
6 面（花蓮港）
7 茅野（花蓮港）
8 鈴木（花蓮港）

百米自由形

十傑中島　今年度　一分六秒四
昨年度　一分六秒四

1 橋本（臺中）
2 大野（花蓮港）
3 小島（花蓮港）
4 高澤（臺中）
5 野崎（桃園）
6 本田（桃園）
7 越智（桃園）
8 島田（桃園）

二百米平泳

十傑中島　今年度　三分四秒四
昨年度　三分四秒四

1 三浦（屏東）
2 宮間（屏東）
3 小枝（花蓮港）
4 飯島（屏東）
5 谷口（臺中）
6 立松（臺中）
7 井上（臺中）
8 阪口（臺中）
9 立松（臺中）
10 村岡（臺中）

四百米平泳

十傑中島　今年度　六分四秒四
昨年度　六分四秒四

1 三浦（屏東）
2 宮間（屏東）
3 小枝（花蓮港）
4 飯島（屏東）
5 谷口（臺中）
6 立松（臺中）
7 井上（臺中）
8 阪口（臺中）
9 立松（臺中）
10 村岡（臺中）

百米平泳

十傑中島　今年度　一分二十秒
昨年度　一分二十秒

1 野口（臺中）
2 中山（臺中）
3 西川（臺中）
4 稻岡（臺中）
5 後藤（臺中）
6 原（臺中）
7 大川（臺中）
8 富坂（臺中）
9 岸田（臺中）
10 宮坂（臺中）

二百米平泳

十傑中島　今年度　三分二十秒
昨年度　三分二十秒

1 中山（臺中）
2 西川（臺中）
3 野中（臺中）
4 稻岡（臺中）
5 後藤（臺中）
6 原（臺中）
7 大川（臺中）
8 富坂（臺中）
9 岸田（臺中）
10 宮坂（臺中）

學生層の不振
金の飛躍、川村擅頭
(1)
陸上競技界回顧

今年の大きな收穫は金關福（晉成商門）の一躍世界水準線への飛躍と關西における川村（文理）の進境であつた、此の反面昨年の覇者は全く振はられる有上（關大）の覇權は正しく大きな差を、本人の腦中を去すべく餘りある又村武（中央）のなんとなく物足りなさは世界の壁を破入れたけに「つまづき」の宿命が遂つた如く言ひ知れぬ寂しさを感じる

★……★

殊にその材能に抑へられた長距離を嘱望されるべき學生層は總じて不振狀態にOBの出場する競技は百米、跳高、跳遠、三段跳等の短距離（大阪AC）村上（早大AC）等のOBに喰はれるのが常と言つた中にあつて、日本新記錄に新興競技たる五千、一萬米及び一万米競歩の開催日に當すると同時に學生層の不振を如實に物語つてゐる、だが村武の不振の精神を發揮して新人の出現を望む

★……★

ともあれ收穫多かつたシーズンは今後を期待る、來春を待たに各館してはならない、世界の壁上昇はたゞ休みなく動いてゐる、關東、關西學生陸上競技界の覇權といふものは一朝一夕になく、御城下を驅れたところに結局を列べてゐるやうなもの、關東